

家庭教育力の強化を図ろう

～子どもたちの健やかな成長を願うPTA活動～

碧南市立西端小学校PTA

1 学区及び学校の概要

本学区は、碧南市の北東の端に位置し、北は高浜市、東は安城市に接しており、南は愛知県唯一の天然湖沼である油ヶ淵に面しており、多くの水田が広がり、緑豊かな地域である。

本校は、明治5年に創立。今年度150周年を迎えた歴史ある学校である。全校児童数417名、学級数16の中規模の学校だが、本校出身の保護者が多いこともあり、学校行事や授業参観などへの参加も積極的で、PTA活動にも非常に協力的である。

2 研究のねらい

本校の校訓は「自学、素直、気力」である。子どもたちには「すすんでまなぶ子」「すなおな子」「じょうぶな子、がんばりぬく子」として教え、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指している。保護者は、子どもの手本となる行動を示すことを大切にしている。子どもたちが自ら行動し、素直に取り組み、やりきることで、「自学、素直、気力」を培うことができると考え、本テーマを設定した。

3 研究の仮説

保護者と児童と一緒にPTA活動に参加することや保護者に学ぶ場を提供することで、保護者が手本となる行動を児童に見せられるようになり、家庭教育力の強化につながると考えた。

4 研究の方法

保護者と児童が参加できるPTA活動を計画し、これらの活動を通して、家庭内で保護者と児童が地域活動、環境問題、ネットトラブルへの意識を高め、家庭教育の強化に貢献できるように活動していく。

5 研究の実践

(1) 資源回収

地域の協力を得て、年に一度資源回収を実施している。大人が徒歩や自動車で各地域を回り、雑誌や新聞などの資源を回収し、6年生が運搬や仕分けをした。子どもたちは、協力してくれている地域の方々や保護者への感謝とともに、SDGsを身近に感じ、考えるきっかけになった。回収した資源の仕分け中、「まだ使えるのにもったいない」と持ち込まれたものに疑問を感じた子どもは、その後、家庭で自分の行動を振り返り、身のまわりの物を大切に使用しているか確認したという。

また、活動中の子どもたちは自ら考え、効率よく作業する場面が多々見受けられ、子どもの成長を実感できる場になっている。活動に参加した保護者からは「家庭とは違う子どもの姿を見ることができた」という意見も上がった。子どもにも保護者にも新たな気付きがあり、家庭教育への足がかりとなった。



(2) スマホ教室

多くの子どもたちは、スマートフォンやゲーム機で、日常的にインターネットに触れている。便利で子どもたちの興味をひくインターネットだが、多くの子どもたちが事件に巻き込まれ、危険な目に遭ったニュースをよく耳にする。そこで、講師をお招きし、スマホ教室を開催した。



「正しく安全に使うには、子どもに単にだめだと言うだけではいけない」「親は、子どもがスマホで何をしているのか、どんなコンテンツを使っているのか知ることが大切」「知るだけでなく、子どもと同じように使えるようにしておきたい」など、子どもを守るために必要なことを学んだ。家庭で、スマートフォンやゲーム機の扱い方やルールについて話し合うきっかけとなった。

(3) 親子で学校まで

朝、親子が通学路を歩いて安全に登校する「親子で学校まで」という活動を行っている。普段大人は、自動車に乗っていることが多いので、歩行者の目線を忘れがちである。しかし、子どもと一緒に通学路を歩いてみると、車通りの多い交差点や危険な箇所を見つけることができた。また、通学中にすれ違った近所の人たちに、子どもから率先して挨拶する姿を目にした。

その日の夜、子どもと安全について話し合うことができた。そして、挨拶をすすんで行っているわが子を褒めることができ、家庭教育の強化につなげることができた。

(4) レクリエーション大会

コロナ禍により、三年間行われなかった碧南市PTA連絡協議会主催のレクリエーション大会が開催された。PTA委員と教師が一つのチームを作り、バレーボールの試合を楽しみながら行った。入賞できなかったが、スポーツの力でチームが団結し、一つになることができた。みんなで汗を流し、大きな声で応援し、大会はとても盛り上がった。



PTA委員同士の仲が深まり、先生とも交流できた。子どものことを相談しやすい関係作りにつながった。普段の学校生活で見られない先生の姿を家庭で話すなど、学校の話をする機会も増え、人と人とのつながりの大切さを感じ、家庭教育の強化につながるよい行事の一つになった。

6 研究の考察

保護者と教師とが協力して活動することで、互いの立場を理解し、よい関係を築くことができた。また、町内会や地域とともに行事に取り組んだことで、地域の方とすばらしい交流が生まれた。笑顔でともに歩む保護者や教師の姿を見て、子どもたちの心が豊かになったと感じる。

7 成果と今後の課題

資源回収では、地区が連携して取り組み、学区の一体化につながった。また、親子での活動は、子どもたちの活躍や成長した姿を褒めることにつながった。そのため、家庭での笑顔と会話も増えた。コロナ禍明けの今年度は、活動の引き継ぎが十分行えなかった。今後は、保護者同士が膝をつき合わせ、子どもたちの健やかな成長を願いながら、よりよいPTA活動を考えていきたい。